



2026 (令和 8) 年 7 月 No.172

標高720mの山梨県北杜市の地。ぶどうのヤマソービニオンは、日本固有の「ヤマブドウ」と欧州の「カベルネ・ソーヴィニヨン」の交配から誕生しました。友人から自身が関わったこのぶどうで作られた国産赤ワインの感想を聞かれましたが、料理に合わせてワインをいただく私には、あまり好みのもではありませんでした。しかし程なくして、多少ワインを嗜んで^たいる私の変な自信がいかに薄っぺらかったかと自覚しました。

この醸造家の想いを記したパンフレットに次のようにあります。「ぶどうの持つ本来の香りや風味を届けるため、敢えて木樽ではなくスチールタンクで醸造。酸化防止剤を最小限に抑え、果実の自然な姿を真っ直ぐに映し撮った誠実な味わいは、和食洋食を問わず、日常の食卓を優しく彩ってくれるでしょう。」

私はこの想いを片手に、心静かにワインをいただくと、澄んだ空気の中、一本一本の木に低農薬で管理を徹底した木から、ぶどうを丁寧に摘み取る姿が見えてきます。これを拝見して、物事を行う際に、その想いを理解して臨むことがいかに大切なかを学んだ次第です。

「想いに気がつく」

さて、昨今の葬儀の形態は、「直葬（葬儀をしない）」「一日葬（通夜をしない）」「通夜・葬儀」に分類されるようになりました。市民権を得た？「家族葬」は参列者の規模なので形態から外しますが、基本的には「葬儀をするか否か」です。

葬儀をしない「直葬」は、今から30年前に葬儀ジャーナリストの碑文谷創氏が問題提起の形で普及させた造語です。結局、この警鐘は生かされることなく、一つの葬儀の形態ができてしまいました。現在、直葬は葬儀社サイドが「火葬式」という呼称を使用するようになりました。

ところで、その直葬ですが、果たして葬儀をしないだけなのでしょうか？葬儀は「故人と遺族が受け容れ難い死を認める」ことを目的にしていると思いますので、これから直葬を選択される方は、直葬を執り行う中で、果たしてこのことがなされるかが肝心になると思います。

葬儀に有って直葬に無いものに事前に気がつくことは、醸造家の想いのように、神仏や故人の願いでもあるように思います。

株式会社溝口祭典 溝口勝巳

イベント・セミナーのご案内

お葬式を考える！ 第1回 「 いろいろなお葬式のかたち 」	
「お葬式」と聞くと、どのような形式を想像しますか？ 仏式葬儀以外にも、神道やキリスト教式、それとも無宗教・・・など、いろいろなお葬式の形があります。 どのようなお葬式の形があるかを知ること、ご自身の希望もはっきりとしてくると思います。一緒に考えてみませんか。	
日 時	8月26日(水) 午前10時～11時
場 所	こすもす斎場（八王子市元横山町 2-14-19）
定 員・参加費	各回 10 名・無料

お葬式を考える！ 第2回 「 自分で決めるお葬式 」	
「私の葬儀はこうにしたい」というお考えはありますか？ 人生最後のセレモニーに、ご自身の希望を取り入れることができます。 お気に入りの写真でご遺影を作成したり、ご家族への感謝の気持ちを伝えるなど、思い残すことのないよう、様々な想いを形にしてみませんか。 生前契約のご案内もいたします。	
日 時	9月29日(火) 午前10時～11時
場 所	こすもす斎場（八王子市元横山町 2-14-19）
定 員・参加費	各回 10 名・無料
※ 2 回連続のセミナーですが、どちらか片方のみのご参加も可能です。	

「人生観が変わるかも！入棺体験」～現役納棺師が葬儀や納棺について教えます	
葬儀における納棺の実演や、納棺に関する様々な疑問・質問にお答えします。 希望者は、実際にお棺に入る入棺体験もできます。 ご納棺の儀式を是非体験してみませんか。	
第1回	10月 5日(月) 午前10時～11時
第2回	10月22日(木) 午前10時～11時
定 員・参加費	定員 6 名・無料 まちゼミにも参加しています。

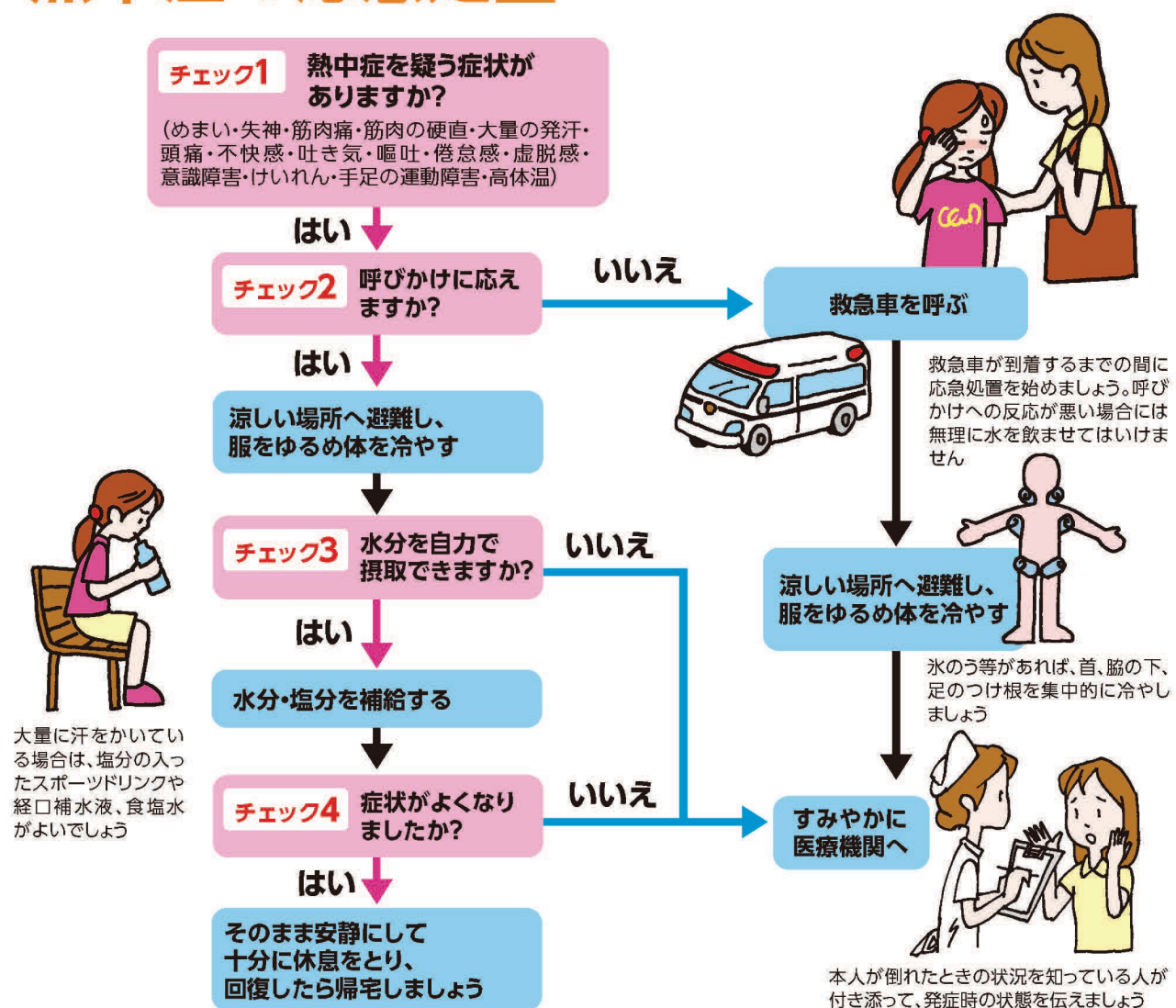
セミナーはお電話で、事前にお申込みください TEL.042-642-0921	
会場：溝口祭典 こすもす斎場（八王子市元横山町 2-14-19）	

今回の表紙「カンナの花」・・・カンナはどちらかというと昔懐かしい花のようです。
私の大好きなカンナは、「行ってくるね」に、「暑いけどしっかり頑張れよ！」と応えてくれます。
これはカンナの想いのように聞こえますが…。ぜんぜん違ったりして💧（溝口）

◆ 熱中症が疑われるときには…

熱中症の応急処置

もし、あなたのまわりの人が熱中症になってしまったら……。落ち着いて、状況確かめて対処しましょう。最初の措置が肝心です。



体温を効果的に下げるための方法の例

- ・上着を脱がせ、服をゆるめて風通しを良くする。
- ・皮膚に濡らしたタオルやハンカチをあて、うちわや扇風機であおぐ。
- ・服の上から少しずつ冷やした水をかける。
- ・氷のうや冷えたペットボトルなどを、首、脇の下、足のつけ根にあてて冷やす。

最高級のお線香を小分け販売いたします

最上級のベトナム産^{じんこう}沈香を使用し、特徴である青さを引き立たせた爽やかな香りです。



小分け販売価格 20g 66本 1,800円(税込)

「縹風（ひょうふう）」は、京都の香老舗「山田松香木店」が手がける高級線香です。最上級のベトナム産沈香を贅沢に使用していて、沈香特有の深みの中に青みを感じさせる、清々しく爽やかな薫りが特徴の逸品です。

煙量：ふつう 形状：短寸スティック 内容量：約120g 長さ：約14cm 燃焼時間：約25分
販売価格：12,650円(税込)

瓢風は焚いていて心が穏やかで豊かになる、とても素晴らしいお線香です。(溝口の感想です)ただ高額なので、なかなか勧めにくいのが難点でした。そんななか思いついたのが、小分け販売です。お試しいただいてお気に召したら正箱でご購入いただければ幸いです。

お申込みは、百具一心堂（溝口祭典仏壇事業部）tel. 042-642-0922 かメール info@hyakugu-isshindo.com をお願いいたします。すばらしい「沈香体験」をお勧めいたします。

「熱中症警戒アラート^(※)」は環境省のLINE公式アカウントで確認することができます。

※熱中症の危険性が極めて高い暑熱環境が予測される日に発表する情報。令和3年度から全国展開。

QRコード→



車椅子で あるく



伊藤 恵里子

昨年秋のこと、当時八十九歳の母と娘・妹の三世代で久しぶりにハワイに行きました。
母は、六年前に大腿骨骨折で人工関節を入れてから杖が離せない生活に。まして、海外旅行などは十五年以上縁がありませんでした。「車椅子だから、もうどこにも出かけられない」と残念に思っている方がいたら、その背中を押したいと思い、母と一緒にいった旅行について書いてみます。

まずは提案です。

① 急な体調の変化に備えて、出発日前に対応できるキャンセル保険に入る。実際に母は一昨年、旅行直前に骨折し入院。その時はキャンセル保険に入っていなかったものでそれなりの金額を支払いました。その時にこの保険に入っていたら……でした。

② 現地での病気や怪我に備えて海外旅行保険にも必ず入る。海外では救急車を頼むだけでも高額です。疾病・傷害保険は無制限のものに入っておいた方が安心です。

③ 現地で車椅子が借りられるか、ホテルに備え付けがあるか、旅行代理店を通じて調べておく。

④ 日本から車椅子を持っていくことも可能です。飛行機への預け荷物は一人三個目から有料ですが、車椅子は無料で預けられるようです。

⑤ 機内では、なるべくトイレの近くの席を確保する。トイレの近くだと人の行き来が多く落ち着かないかもしれませんが、トイレに行く回数が多い人は近い方が楽だと思います。トイレのことを心配して水分を控えるのは厳禁です。

⑥ 空港職員の親切な提案は遠慮せず利用させてもらう。ホノルルの空港では車椅子一台に職員一人が張り付いてくれ、往復共に到着から介助してくれました。

⑦ 街中でもホテルでも親切な人は必ずいます。先方から声をかけてくれたら、ありがたく厚意を受けましょう。お礼は、笑顔で「サンキュー！」で充分です。

⑧ 車椅子の人を含めて三人以上の旅がおすすすめ。車椅子の人と介助者の二人旅ではトイレに行くのも何をするのも不便です。一人は車椅子に付き添い、もう一人は荷物番などと役割分担ができると良いと思います。

⑨ 荷物は少なめに、が理想です。ホテルではチェックイン時は部屋まで荷物を運んでくれますがチェックアウト時は一人が車椅子の介助をしつつ、荷物を自分達でロビーまで運ばなければならず、荷物が多く大変でした。

⑩ できればホテルは一所、多くても二か所滞在くらいが良いでしょう。ヨーロッパ周遊のように各地を転戦する旅は、荷ほどき・荷造りだけでも負担です。一か所の滞在でゆっくり過ごすのが理想的です。

こうしてみると、旅へのハードルは思ったほど高くないと思いませんか？



溝口 由香利 / みぞぐち ゆかり 平成4年 結婚と同時に(株)溝口祭典役員となる
平成10年より 八王子市民生委員・児童委員、八王子市社会福祉委員
令和4年より 八王子市社会福祉協議会評議員 二児の母

て聖人となり、貧しい人や、病人の救済に生涯を捧げる半生を描いた作品です。映画の内容はともかくとして、ライ麦パンとは違い、また別の意味で見た目にも硬そうな乾ききったようなひとつのパンを分けあって食べるシーンがありました。が、「食べる」ということよりも「分け合う」ということで身体と心の両方の空腹を満たしていたのが強烈な印象でした。

時代や年齢、国籍、生活環境を超えて、パンはたくさんの人々に愛されているのだと思います。

高校生の時の英語の授業で教わったことですが、日本語のパンという言葉はポルトガル語の「パオ」が語源だけれど、英語圏の「bread」には「生活の基本、生活の糧」という意味もあるそうです。わかるような気がします。

【パン冷凍保存】

お米同様に小麦の価格の影響でパンの値段高騰も続いています。そんな中、冷凍保存で無駄なく出来立ての味を楽しめるのがパンのうれしいところ。サランラップやジップロックよりも、アルミ

ホイルでしっかり包むのがお勧め。解凍はアルミホイルをはがして常温で！トーストにするときも少し手間がかかりますが、冷凍されたものをそのままトースターで焼くよりも常温で元に戻してから焼いた方がさらに美味しいです。……と私は思います。

※ 食の思い出 第3回は「じやがいも」です。これが最終回となります。もう少しお付き合ってください！



鎌倉萌え散歩

第6回 常楽寺の龍

また昔話になるのをお許し願いたい。今度は私の中学時代の話である。今は無き市立第三中学校に入学して最初の担任がN先生だった。体育の先生で、厳しい指導で知られていた。要するに体罰である。私は優等生の部類だったので、一度しか叩かれたことがない。今の時代だと相当な非難を浴びるが、熱心な教育姿勢を信奉する生徒も多かった。最後には校長先生にまでなられたが、もうお亡くなりになってしまった。このN先生のお名前が龍蔵で、私は龍という漢字をここで覚えた。

と言う訳で、今回のお題は龍である。

ご存知の通り、龍とは神話や伝説に登場する架空の生き物で、もう弥生時代には中国から伝わってきていたらしい。雨や雷をもたらすことから、人にとって無くてはならない存在であった。

鎌倉の神社やお寺にも数多くの龍の姿が見られる。調べてみたら予想通り数多く存在し、彫刻であればお寺の本堂や神社の本殿の向拝、手水舎、その他木魚に彫られている龍もいるという。ちょっと紹介すると、比企ヶ谷にある日蓮宗の巨利妙本寺には、二天門に龍の彫刻があるのと、手水舎の蛇口が龍である。二天門の龍は、その前で手を打つと龍が鳴き声をあげると言う「鳴龍」伝説があるそうだ。私もやってみたが、鳴いてはくれない。

一方の円覚寺の白龍は、日本画家の前田青邨監修、守屋多々志揮毫で描かれた。前田青邨は平山郁夫の師匠だったらしい。東慶寺にお墓がある。円覚寺の白龍は三爪である。よく爪の数ばかり比較されるが、龍の顔も比べてみると面白い。円覚寺の龍の方がちよつとドヤ顔をしている。

今回、萌え散歩でお誘いしたいのは、常楽寺というお寺である。場所は大船駅から北鎌倉に向かう途中にあるが、周りは商店街、住宅地、工場などで、散歩道に趣は無い。山門は美しいが境内はそれほど広くなく、うつそうとした感がある。こじんまりしたお寺であるが、建長寺の開山蘭溪道隆が鎌倉に招かれた際、建長寺が出来るまでこの常楽寺の住持となったことから、「常楽は建長の根本なり」と尊敬の念を抱かれているほど由緒は正しい。

また常楽寺は大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で坂口健太郎君が演じた北条泰時ゆかりのお寺である。#俺たちの泰時としてネットも賑わせていた。境内には泰時の墓、裏山には木曾義仲の息子の義高の墓とその許嫁だった大姫の墓がある。義高と大姫はとても仲良く暮らしていたが、義仲と頼朝が争うことになり、人質だった義高は打たれてしまったのだ。大姫の悲しみは計り知れず、物を口に出



常楽寺の雲龍図



常楽寺山門



常楽寺仏殿



円覚寺の白龍図



建長寺の雲龍図



妙本寺 二天門の龍



妙本寺 手水舎の龍

かった。このお寺は、春の桜や海棠が美しいことで知られている。よく結婚式の前撮りにも出くわすが、映えスポットを占拠して動かないので、我々のような一般カメラマンからするとはいきり言って邪魔である。正直あまり祝福する気にならないのは狭量か。

妙本寺の他にも約五十の寺社で龍の彫刻が見られるそうで、とても紹介しきれない。であるので、今回もう少し詳しく紹介したいのは、龍の天井画である。

龍の天井画には、「仏法の雨を降らす」「火災から護る」という意味があるらしい。有名なのは建長寺法堂の雲龍図と円覚寺仏殿の白龍図である。どちらのお寺も言わずと知れた鎌倉五山の第一位と第二位の巨刹。建長寺の雲龍図は、十二所に住む日本画家の小泉淳作によって描かれた。この龍の特徴は五爪にある。日本の龍の絵は一般的に三爪で描かれてきた。中国では五爪の龍は天子の象徴とされてきたため、描くことを許されなかったからだ。そこを小泉淳作はあえて本来の五爪で描いている。小泉は「龍は人類の理想的な空想動物であり、天空から地上を見下ろして災厄から庇護する存在」と語っている。五爪の龍はその理想像をより力強く、荘厳に表現するための選択だったと言える。

なくなつて衰弱死してしまう。こんな小さなお寺の中にも、多くの歴史が詰まっている。

山門から進んだところにある仏殿には本尊の阿弥陀三尊像があり、その天井に雲龍図が描かれている。

この雲龍図は江戸時代の狩野派の絵師、狩野雪信によって描かれた。狩野派ならではの伝統的な墨画を基盤としながら、精緻で迫力ある構図で知られている。天井板に直接描かれているから保存状態が良く、修復無しで現在まで残っているとのことである。

この雲龍には不思議な伝説があったそう。あるとき住職が夜な夜な仏殿脇の池で水を飲む音がするので不思議に思い見に行くと、仏殿天井の龍が抜け出て、池の水を飲んでた。怖くなった住職は、絵師に頼んで天井の龍の目を塗りつぶしてしまった。そうするとその晩から池で水を飲む音がなくなったそう。そう言われて雲龍図を見ると、確かに目が白く塗りつぶされている。昔のアニメの白目キャラのような姿が愛らしい。

今年の夏は異常に暑かった。常楽寺の龍が水分補給出来なくなってしまう、熱中症で白目をむいたのではないことを祈る。